

『双葉郡未来会議』～地元の地元による地元の為の寄り合い～

なにそれ？

主旨「はなれていてもおとなりさん」 その1

双葉郡未来会議とは震災以降、バラバラになった双葉郡の住民同士が繋がり、情報や問題を共有し今後役に立てる、双葉8町村の住民が民間レベルで集まる場所です。
2015年秋から年4回ペースの会議、帰還困難区域も含む各町村の視察、イチエフの視察を予定。

1)「はなれていてもおとなりさん」

双葉8町村は、これまで合併しないでここまでできました。それは原発の存在が大きな理由の一つでしたが、それがこの震災からの避難によって、各町村の対応、方向性が見事にバラバラという弊害を生んだともいえます。しかし、住民レベルでいえば、元はお隣さんの集まりで、私利私欲を抜きに、集い、話し、理解し、助け合える事もたくさんある筈です。

2)「おとなりさんは今、どうなの？」

私たちはとなりの町村の事をどれくらい知っているだろうか？
県内外に散らばってしまっても、もとはお隣の町村同士。みんな自分の事だけでなく、まずはおとなりさんの実情を知り、被害の大小だけでなく、それぞれの立場での難しさをまず理解しあう事から始めたい。今後の双葉郡を繋いで行く為の必要最低限の事だと思います。双葉郡未来会議での定期的会議、帰還困難区域を含む各町村の現地視察やイチエフ視察も行う。

3)「そろそろ近所付き合いも」

これまでは自分のところだけで目一杯だったかもしれない。しかし5年目を送っている今、お隣の事も思いやる、そんな少しの余裕が欲しい。そして、一つの町村だけでは解決出来ない事も、みんなでやればできるかもしれない。双葉郡内で、民間レベルでの連携を生み出したい。この場所で出来た繋がりや情報の共有は必ず、この先のそれぞれの町村、町村民の今後の対応、立て直しの役に立つ。出来る事から始めましょう。

4)「あんまり話は得意じゃない…」

ワークショップ形式ではなく、基本的に勉強会です。そして自分の町村以外の友達も作り、いざという時には助け合いましょう！というのがメインです(飲み会がメインでもかまわない)。

5)「誰がくんだっぺ？」

基本的に地元の住民と、支援に直接関係している方を参加条件とします。懐かしい人に会えるかも。

7)「語り継ぐ為に」

ある意味世界中で注目されて、負の意味で歴史に残る双葉郡の住民として、地元の事を語れないのはハズかしい。

連絡先 970-8026 福島県いわき市平字三倉57-3 ホワイトビル101
平山“two”勉
ノーマディックレコード/(有)ホテルひさご/富岡インサイド/相双ボランティア/ふたば商工(株)
Tel 090-2322-1895 / Fax 0246-38-7513
+++++
富岡インサイド
<http://www.tomioka.jpn.org/>
相双ボランティア
<http://sosovolunteer.com/>